

① 国語

- ① 子供の動きが変わる「国語のわざ言語」 ベスト10
- ② 教師の授業が変わる「国語のわざ言語」 ベスト5

② 算数・数学

- ① 教師の授業が変わる「算数・数学のわざ言語」 ベスト5
- ② 子供の動きが変わる「算数・数学のわざ言語」 ベスト10

③ 社会

- ① 子供の動きが変わる「社会科のわざ言語」 ベスト5
- ② 教師の授業が変わる「社会科のわざ言語」 ベスト5

④ 理科

- ① 子供の動きが変わる「理科のわざ言語」 ベスト5
- ② 教師の授業が変わる「理科のわざ言語」 ベスト5

⑤ 体育

- ① 子供の動きが変わる「体育のわざ言語」 ベスト5
- ② 教師の授業が変わる「体育のわざ言語」 ベスト5

⑥ 図工

子供の動きが変わる「図工のわざ言語」 ベスト5

⑦ 音楽

子供の動きが変わる「音楽のわざ言語」 ベスト5



イラスト：渡邊 瑞穂

教科別

授業が変わる

わざ言語
大全

1 子供が変化する言葉・方法

子供に

「思いっきりやんなさい」

だとか、

「もつと前に手をつきなさい」

だとか…

そんな風に言っても子供は変化しません。

ところが、

子供が変化する言葉

もあるのです。あるいは、

子供が変化する方法

もあるのです。

例えば、跳び箱で

「助走を気を付けなさい」と言っても変化しません。

でも、

スーッと走りなさい

と言うと、子供はきれいなスーッと走るようになるのです。

つまり、

変化する言葉

変化するポイント

があるわけです。

(以上、NHKのインタビューに応える向山洋一氏の言葉より一九八七年頃)

2 「わざ言語」を整理しよう

三七年前に向山氏が指摘した「子供が変化する言葉」。

こうしたものを「わざ言語」とも呼びます。

※わざ言語＝技能などの教授プロセスにおいて、相手に関連ある感覚や行動を生じさせたり、現に行われている活動の改善を促したりするときに用いられる独特の言語。科学言語のようにある事項を正確に記述、説明することを目的としない(生田久美子 二〇一一年)

「助走はスーッと走りなさい。」というのは、いわば「子供向けわざ言語」です。同様に教師向けの言葉もあります。例えば、

体育の授業は一時間が流れるようにしなさい。

といったものです。

その言葉で「よいイメージのニュアンス」を伝えようとしているわけです。

先般の「TOS Sサマーセミナー」でも私からいくつかを紹介しました。

どの教科にも存在するそうした言葉。それを各教科のエキスパートチームの競演でピックアップしていただくとする特集です。

(本誌編集長 谷和樹)



正確に読み・書き・話すためのわざ言語

わざ言語からは、子供の事実が生まれる。

子どもが変わるわざ言語10例 文責村上諒

<正確に読むためのわざ言語>

- 1) 「すらすら読めるように読みなさい。」(音読)
- 2) 「題名の横に、丸を一〇個書きなさい。」(音読・描写)
- 3) 嵐はどうなってきましたか。あてはまる文をさがしなさい。(読み取り)

<正確に書くためのわざ言語>

- 4) 覚えるまで鉛筆は持ちません。指の腹をつけないで。(指書き)
- 5) 「『山の二画目は』『二』ではなく、『ニ一』と書くのですよ。」(空書き)
- 6) 「3点です。10点です。」(個別評定で知らせる。)
- 7) クライマックスから書き出しなさい。(行書作文)
- 8) 主題を取り払いなさい。(主題と述語の文にしなさい。)(主題の書き方)

<正確に話すためのわざ言語>

- 9) 自信のない人からどうぞ。
- 10) おかしい意見を消しなさい

神奈川県大和市立林間小学校

むら かみ りょう
村 上 諒

正確に読むためのわざ言語

- (1) すらすら読めるように読みなさい。
- (2) 題名の横に、丸を一〇個書きなさい。

「向山洋一氏によると国語科は、正確に読み、正確に書き、正確に話す。それが基本」ということを谷和樹氏から教わった。ベスト10とあるが、状況によって変わるため、一〇個紹介という形で正対したい。※分類は私の独断と偏見である。

まずは、音読指導のわざ言語を紹介する。子供は、声を出すことに集中してしまいがちである。そこに「すらすら読めるまで」と規準を示すことで、子供は変わる。向山氏は、「夜のくすのき」の実践などでも多くの音読指導を行っている。すらすら読めるようになるから、内容の理解につながるのである。

さらに、(2)は教科書に音読回数を視覚化することで、子供が自然と自己調整できる

言葉かけである。

- (3) 嵐はどうなってきましたか。当てはまる文をさがしなさい。

これは、向山氏の四年生の実践における言葉かけと個別評定の実践である。わざ言語というよりも発問に近い。私自身、六年生で行った。「句読点を忘れて減点」というところまでがセットだ。次回、子供が正確に書き写せるようになる。

正確に書くためのわざ言語

書く指導の中でも、漢字指導と文章を書く指導では言葉かけが異なる。まずは漢字指導からまとめていく。

- (4) 覚えるまで鉛筆は持ちません。指の腹を付けなさい。
- (5) (山の二画目は)「二」ではなく、「ニ一」と書くのですよ。

これらは、子供たちへの概念崩しである。「漢字を覚えるには、たくさん書かねばな

らない」という考えが、現場にはびこっている。事実、向山氏と奥田氏のこの言葉かけを行うと、子供から「漢字を覚えることができたよ」の声を聞くことができる。空書きの場面は、教師が確認するための授業行為である。子供たちは、曲がりや字形を意識しながらアウトプットができる。

分析批評の授業の際、起承転結を書かせる場面がある。ノートを持って来させた際、次の言葉かけがある。それ以外何も言わないで、次のことを言う。

(6) 3点です。10点です。

向山氏は、「この方が子供が動く」と述べている。全てを語らない個別評定だからこそ生まれる事実である。

他にも、作文指導（行事作文）においてのわざ言語がある。

(7) クライマックスから書き出しなさい。

「動きのある文で書き出してもよい」と向山氏は語る。子供はつい、日時などの時系

列から書き出しがちである。こう伝えるだけで、子供の作文が激変する。

分析批評には、主題を書かせる場面がある。その際に使う向山氏のわざ言語があるので紹介したい。

(8) 主語を取り払いなさい（主語と述語の文にしなさい）。

これは、抽象化が難しい子へのわざ言語である。「桃花片」の実践における一連の流れの中での指導言である。かの有名な「人間は〜」「人の世は〜」で主題で書かせる主題の実践も、こうしたステップが前段階にあるのだ。

正確に話すためのわざ言語

本来ならば、討論における「子供が変わるわざ言語」を紹介したいところである。しかしながら、討論は、「ノートにびっしりどの子も意見が書かれている」「どの子も意見をもっている」など、それまでの学級経営や教師の教材研究という総合力が試

される。したがって、次に述べるものはあくまで話しやすい雰囲気をつくるためのわざ言語であることをご留意いただきたい。

(9) 自信のない人からどうぞ。

向山氏が、指名なし発表や指名なし討論で使うわざ言語である。これにより、毎回発言力がある子だけでなく、不安な子も心理的安全性をもった状態で発表することができる。正確に話すためには、発表の回数も重要なファクターである。

(10) おかしい意見を消しなさい。

正確に自分の意見を話すためには、意見を二つまでに絞ることが必要である。その上で、自分の意見をもつことで、はじめて話すことができるのである。

いずれにせよ、わざ言語は奥が深い。まだ多くのわざ言語があるはずである。※一覧はQRコードを参照ください。



デジタル版 000011A0

カラー画像を見ることができます！

